

上田元将補講話紹介（その1）

上田元将補（元第1術科学学校長）の講話集から数点をシリーズで紹介する。

バッタに負けるな、お前、人間だろ 15. 8. 12

RR 上田

物事を計画し、実行する。しかし、物事を包む情勢は、刻々と変化している。

その情勢の変化が、自分の計画や実行に影響を与えない時は計画とおり実行すれば良い。

しかし、変化分をとらえ、影響するかしないかを判断し、すると判断した時は、直ちに修正が必要となる。言わずもがな・・・である。

バッタの異常発生・・・一回は耳にしたことがあるだろう。バッタは、気候という情勢の変化を見通し、自らを変え、居住場所を変更し、生き残りを図っている。

アフリカの中部に異常発生したバッタの物語を紹介しよう。

バッタは、温順な気候の下、安定して生活している時は、その環境に似合うよう体型は大きく角ばり、緑色で植物を主食としている。

が、しかし、気候の異常を感知するや、乾燥にも耐えるよう、いつもより多く土中深く産卵し、種族の保存を図ろうとする。

この状態の中で、大量の降雨があると一挙に孵化し、バッタの異常発生となる。もう既に情勢の変化にバッタは対応しているが、これからが、本物の彼らの凄さが発揮される。

異常発生すると、当然食糧難に直面する。ところが、緑の土着農業型バッタのままでは、総員が死ぬこととなる。そこで、バッタの変身が始まる。

異常気象に即時対応するように卵から成虫となる脱皮の回数を減らし、体型は、飛んで移動するのに都合の良い流線型となり、色も茶褐色となる。この変化は、驚きではないが、もう一つ大きな変身をやってくれる。それは、消耗するエネルギー源を変えることである、土着農業型、この時は炭水化物を消費する。ところが、変身後の機動狩猟型の時は、脂肪という高エネルギー源に変化させ、長時間飛行が可能となる。

こうして群れの大半の準備が整ったところで、新天地に向けての移動を開始する。

誰が指揮官か、私も勿論知らない……是非興味ある学者さんに調べてもらいたいものである。……が、太陽熱で地面が温まり、上昇気流が発生する午前10時ごろ、一斉に飛び立つ。なんと、燃料効率を計算に入れた行動か！！！！

して、夕刻、ある地に舞い降りる、そして、食べて体力の回復と明日に備えての休養となるが、ここで、以前と異なるのは、餌は植物に限らず・・・となる。より栄養価の高い動物、つまり、力果ててその地に倒れた仲間を餌とする。

バッタの社会に倫理なるものがあるかどうか知らないが、草食動物から肉食動物へと変化するのである。

こうして数日を費やして、北上を続け、偏東風の直下まで移動する。GPSを使ったカーナビも持たない昆虫が「バッタナビ（構造機能不明）」でしっかりと高精度の航法で機動するのである。

して、「アフリカの地よ、さようなら。」と言い残し、空気が薄く抵抗の少ない、かつ、

偏東風の強い高高度へと急上昇する。

そう、向かう先は、アメリカ大陸である。大西洋の横断である。

この結果、アメリカ大陸近くになると力尽きたバツタが墜落し、海面が黒く染まると言う。こうしたバツタは、新天地を眼前にし、さぞかし無念であったろうが、残りの多くのバツタは、大陸に着地し、新生活を始めると言う。

暫くして見ると、バツタは、緑色となり、大きく角ばった土着農業型へと復帰していると言う。

色々な情報が渦巻き、その気になれば情勢の変化は容易に感知できる現在である。台風が来た！情勢の変化に無頓着な人が多い。言われることしかしない、出来ない人間が、特に日本人には、文化的にそうなんだろうが、多すぎる。そして、予想し対処できるはずの台風にすら抗し得ず、無為に、自殺的に自滅する人がいること・・・我々の戒めとしよう！！！！

情勢の変化に応じきれないものは、この世から淘汰される！